

前書きで、“自分で考えるための「指針の書」”と書いているが、もう少し考えるための切り口を示した方がいい。あとがきで「金の受け取りを70歳からにすれば生涯にわたって4割以上受取額が増えるのですから、夫婦で月額20万円の公的年金があるとすれば、8万円以上増えます。」と書いているが、単純に0.7%/月増えるわけではないこと、70歳で受給する人が多分1%もない現実があることも示すべき。

老後生活におけるお金のやりくりで理想的な方法は、

- ① 日々の生活は公的年金でまかなうようにする
  - ② 趣味や楽しみのための費用は働いて得る収入やそれを貯めた資金でまかなう
  - ③ 退職金や自分の保有する金融資産はできるだけ取り崩さず、将来に備える
- と項目として挙げてみると、とてもシンプルなものです。ですが、実際に実行するとなるとルールや考え方をしっかりと持っていないと意外に難しい場合が出てきます。

年金の本質は保険。

長生きした場合にお金がないのは困る。延ばせるなら後にずらした方が安心。…年金の繰下げ。

まずは公的年金の範囲内で生活するというのを考えるべきです。前述の夫婦二人の場合のモデル年金額である22万円あまりで生活できるようにすることが第一です。それで足りないのであれば、足りない分はできるだけ働いて補うべきです。

図3 年齢階層別の平均年間給与

年齢	男性	女性
60～64歳	508万円	232万円
65～69歳	393万円	203万円
70歳以上	353万円	208万円

国税庁 平成29年分 民間給与実態統計調査  
 - 調査結果報告 - (平成30年9月)より

民間給与実態統計調査

<https://www.nta.go.jp/publication/statistics/kokuzeicho/minkan/top.htm#a-04>

この調査は、各年12月31日現在の源泉徴収義務者（民間の事業所に限る）に勤務している給与所得者（所得税の納税の有無を問わない。）を対象としている（下図網掛け部分）。

	源泉徴収義務者	
	民間の事業所	官庁等
給与所得者	従業員(非正規を含む。)、役員	国家公務員、地方公務員、公庫職員等(非正規を含む。)
	全従業員について源泉所得税の納税がない事業所の従業員	
	労働した日又は時間によって給与の金額が算定され、かつ、労働した日にその都度給与の支給を受ける者	

第10表 事業所規模別及び年齢階層別の給与所得者数・給与額（続）

その3 平均給与

65～69 4,210 千円

その6 平均給与（乙欄適用者を除く）

65～69 4,309 千円

~~~~~

定年

後に新たな仕事を探すために良い方法はいくつかありますが、**基本は自分のコネやツテをフルに使う**ことです。前著でも書きましたが、ハローワークなどでは、**自分のやりたい仕事や満足できる仕事に巡り合うことは難しい**でしょう。

そもそもこの**年金積立金**について

ては大きな誤解があります。それは、多くの人がこの「年金積立金」が年金給付の財源になっていると思っていることです。実態はそうではありません。この「年金積立金」はあくまでも貯金なのです。前節でお話したように、年金制度は「賦課方式」になっています。つまり今年、年金生活者に支給しているお金は、今年、現役の人が払い込んだ年金保険料の中から充てられているのです。もし支払いが足りなければ、この積立金の中から引き出しますし、逆に余れば積立金に入れておくのです。ちょうど家計で、給料以上に赤字が出たら貯金から引き出し、余ったら貯金に入れておくようなものです。

実際、先の「2000万円問題」が話題になって以降、金

融機関での口座開設が増えたり、株式投資スクールのようなところに申込者が急増したりしていることから「投資で資産を増やそう」という主張は、老後不安を持つ多くの人に対してはかなり効果があると言って良いでしょう。

が、投資にはもう一つの目的

もあります。それは資産の価値を減らさないようにすることです。もう少し具体的に言えば、**将来物価が上昇しても、自分の持っているお金の購買力が減らないようにする**ということです。

**投資**はお金を投じる先の「価値」が向上することに期待する行為です

が、**投機**は、お金を投じる対象の「**価格変動**」に賭ける行為です。価値が向上するかどうかはある程度投資先の企業分析をすれば予測できますが、価格の変動は予測できません。したがって、**投機の方が投資よりもはるかに難しい**と私は考えています。

**投資は少しずつゆっくと儲ける**ことを考えるべきで

す。退職金やそれまで蓄えてきた貯金を一度にまとめて投資をするというのは投資初心者が取るべき態度ではありません。投資を決して甘く見てはいけません。

但し、「早く、たくさん儲けよう」と考えて投資をすると、それは多くの場合、単に投機に終わってしまい、結果的に失敗する可能性は高くなることに注意すべきです。

iDeCOは、原則として誰でも加入できるのですが、現時点では**企業型確定拠出年金**を導入している会社に勤める人はほぼ加入するのが不可能です

多くの人は起業するところまではできてもその後うまく続けることはそう簡単ではありません。その理由は**顧客を開拓**しなければならないからです。その辺りは具体的にどのようなことを訊いてみました。

「特に変わったことをしたわけではなく、それまでにお世話になった方々へ挨拶して回っただけです。私は**仕事を取るための営業は一切しません**。なぜなら、こちらから「仕事を願う」、のはこちらの立場が不利になるからです。実際に営業っぽいことをやった先からはほとんど仕事は来ませんでした」

このあたりの感覚は私も経験上よくわかります。でも確かにその通りですが、それだけではなかなか仕事の依頼が来ないことも事実です。そんな中、安定的に仕事の依頼が来るというのは本当に素晴らしいことです。

「でもうまく行かなかったことも結構あったんですよ。予定していた仕事が取れなかったり、顧問契約も進まなかったりといった具合にね。でも私はこう考えました。世の中の最先端の部分というのは1%の人しかわかっていない。ブロックチェーン（分散型台帳技術）もAIもそうです。私はそれを残りの99%の人に伝えるのが役割だと思ったのです。そう考えて、いろんな人に話をしていくと、次第に少しずつ仕事の依頼が来るようになりました。**面白いのは来るときは一度にたくさん来るときもある**ということです。そんな時は自分で抱え込まずに人にその仕事を回してあげるようにする、そうすれば更に仕事は来る、ということもたくさん経験しました」

・池端さん 「草食投資家」

「やはり勉強しましたね。具体的に言うと、本もかなり読みました。説明会に出てわからないことは徹底的に聞いたし、それでもわからないことは本で勉強した。そういうことを地道にやっていくうちに、何となく本質がつかめてきたような気がしました」

本質とは一体何なのでしょう、さらに詳しく訊いてみました。

「**リスクを取らない限り、リターンは絶対に得られない**という、言ってみれば当たり前のことなんですけど、それが心底理解できましたね。それと資産形成をする時に、『**金額**』を目標にしてはいけない！ということです」

「え、『金額』を目標にしてはいけない？それは一体どういうことですか？」

「例えば1千万円を目標にして、それが達成できると2千万円、それができたら5千万円、1億と際限なくお金が欲しくなる。そうじゃないんですね。人生の目的はお金そのものじゃなくて、楽しむことですよ。だからまずは**自分の好きなことは、やりたいことは何だろう？と考えてそのために必要なお金をこしらえれば良い**ですよ。そういう目的もなしに漠然とした不安だけを抱えてお金を増やそうとすれば、キリのない地獄に陥りかねません」

「27年間、コツコツと積立投資を続けて学んだのは、**経済ニュースや相場の変動に決して惑わされない**ようにすることですね。一番やっはいけないのは下がった時に慌てて売って**短期で投資をやめてしまう**ことです。資産を形成するためには一定の時間がかかります。したがって、長期で自分の実現したい夢を託す資産形成を成功させるためには、環境が変化しても惑わされない心の平穏を保つことが大事です」

仮に年金の受け取りを70歳からにす

れば生涯にわたって4割以上受取額が増えるのですから、夫婦で月額20万円の公的年金があるとすれば、8万円以上増えます。2000万円問題の背景が月に5万5千円の赤字というデータだったわけですから、これならいとも簡単に問題は解決します。

・・・単純すぎる。